

平成 22 年度 府立大塚高等学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

<p>&lt; 普通科 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な生徒の幅広い教育ニーズに応える普通科</li> <li>地域に根ざした普通科</li> </ul> <p>&lt; 体育科 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>府立高校唯一の体育科として、「競技力の向上」と「広く府民の体育・スポーツの振興、発展のための拠点校」をめざす体育科</li> </ul> <p>&lt; 普通科・体育科 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「生徒の第 1 希望をかなえる学校」「進学にも就職にも強い学校」</li> </ul>
---

2 本年度の教育目標

<p>平成 19 年度より 3 年計画で「進学にも就職にも強い学校」「社会に貢献できる生徒の育成」をめざし様々な教育活動を展開してきた。本年度は、昨年度までの取組をさらにステップアップさせ強化することであり、次の ~ の取組に重点をおいて進めるものとする。</p> <p>確かな学力の向上 志や夢のはぐくみ 豊かな心と社会性の育成 開かれた学校づくり 体育・スポーツの拠点校</p>
---

3 本年度の取組計画及び自己評価

領域	具体的な取組計画 [平成 22 年 4 月記入]	取組状況の自己評価	今後 進めたい取組み
(1) 学習指導等	<p>大学進学目標の明確化・・・生徒がよしとする志望大学よりワンランク上の大学めざす進路指導を積極的に進める</p> <p>センター試験へのチャレンジ・・・安易な進路選択を避け、生徒の進路希望と学習の成果を客観的に分析して、生徒の自主的積極的なセンター試験へのチャレンジにつなげる。</p> <p>進路実現をめざした継続的な就職・進学講習の実施・・・普通科・体育科のそれぞれの生徒の実態や状況を踏まえた就職・進学講習の計画と継続的な実施を進める。</p> <p>学力向上をめざした進路講習、長期休業中の講習・補習の実施・・・従来の学年独自の取組を全校的な学力向上のための取組として学校教育活動に位置づけ、系統的継続的な講習を定着させる</p> <p>研究授業、授業参観（公開授業）の実施・・・教職員間の授業力向上の気風を醸成し、生徒にとって「わかる授業」を追求する。</p> <p>授業評価システムの構築・・・首席を中心として生徒による授業評価を計画・実施し、教員の授業力向上を図る。</p>	<p>4 年生大学進学実績は 1 クラス増の影響もあるが、昨年度 147 名から 197 名と 50 名の増加。とりわけ桃山大学 11 名 35 名、阪南大学 15 名 33 名と躍進。</p> <p>センター試験受験者は 4 名に留まり、当初の目標（10 名以上）は達成できなかった。3 年間横ばい状態（3 名 4 名 4 名）が続いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>系統的継続的講習を全校的に取り組んでいる状況ではないが、教科レベルでの各種講習は定着している。</li> <li>従来の少人数授業に加え、習熟度別学習を 2 年生体育科の英数国で実施。生徒の学習への意欲を高めることができた。</li> <li>保護者対象授業参観と校内研究授業週間を 1 学期及び 2 学期に実施。</li> <li>初任者を中心に平野高校と交流会（高校間連携による授業見学）を実施。互いの情報交換や意見交換により授業力向上に向けた取組みとして一定の成果を得ることができた。</li> </ul> <p>先進的に行っている他校の状況をリサーチし、全教科科目について生徒による授業評価を 2 学期末に実施することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 年次から進学診断テストの実施やインターンシップ・大学見学会等を保護者の参加も呼びかけながら推進する。進路意識の醸成、早い時期からの目標設定</li> <li>進路指導部が主体となった 3 年間を見通した系統的継続的な進学・就職講習の企画と推進</li> <li>初任者、若手教員を中心に近隣高校（第 7 地区）と連携した授業見学会、研究授業の実施</li> <li>中高連携、地元小中学校連携した公開授業の実施</li> </ul> <p>生徒による授業評価の定着と評価結果の公表、フィードバックに至る評価システムの確立。</p>
(2) 生徒指導等	<p>学校家庭の連携強化・・・担任と家庭との連絡体制を基本に学校家庭の連携を強化し、生徒一人ひとりの状況に応じたきめ細かい丁寧な生徒指導を徹底する。</p> <p>3 学年の統一した指導の徹底・・・遅刻・欠席・問題行動等について、従来の学年主体の指導から生活指導部の統一的な指導にシフトし、学年間の連携協力体制を整備強化する。</p> <p>教育相談体制の整備、充実・・・定期的なケース会議を開催し、課題のある生徒の把握とサポート体制を強化する</p> <p>感染症等の危機管理体制の整備・・・感染症等（パンデミック）に対する危機管理マニュアルを点検し、危機管理体制を整備・強化する</p>	<p>春・秋の懇談期間にクラス生徒全員の保護者と面談することを目標とした。春の懇談についてはほぼ達成。秋について学習面、生活面、進路面で課題のある生徒を中心に実施。概ね達成できている。</p> <p>時間差登校（1 年 8：15、2 年 8：20、3 年 8：25）挨拶の励行については概ね良好。</p> <p>遅刻状況 1 年 132 件（前年比-106）、2 年 418（-29）、3 年 609（+78） 合計 1159（-57）</p> <p>ケース会議の定期的な開催はできなかったが、身体面や精神面で課題のある生徒に対して、保健室登校をはじめとする適切な対応を図ることができた。</p> <p>本年は、昨年度の状態（新型インフルエンザの蔓延）を踏まえ、先々を見通した危機管理に概ね取り組むことができた。</p>	<p>PTA 活動と連携し、懇談や公開授業への保護者への参加を促し、学校家庭の連携強化</p> <p>ケース会議の定期的な開催（毎月 1 回）と関係機関との連携推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる状況に対応可能な危機管理体制の構築</li> <li>校内施設設備の点検、整備。（施設設備の老朽化が進んでいるため、安全面での対策も必要）</li> </ul>
(3) 学校運営等	<p>首席を中心とする諮問委員会の有機的活用・・・分掌長、主任の諮問委員会への積極的参加を促し、学校運営の参画意識を高めながら、学校の活性化・教育目標の達成をめざす。本年度はカリキュラム編成を諮問する。</p> <p>地域交流とボランティアの推進・・・地域との文化・スポーツ交流やボランティア活動を本校運動部・文化部を中心に P T A 活動と連携しながら推進する。</p> <p>積極的な学校広報活動の推進・・・地元中学を中心に、体験入学・体験入部・学校説明会・定期的な学校訪問・出前授業等を通じて、意欲のある生徒や技能技術にすぐれた生徒の発掘と勧誘を進める。</p>	<p>平成 25 年の新カリキュラム完全実施に向け、カリキュラム編成は概ね順調に進んでいる。</p> <p>地域との交流状況は概ね順調に進めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>女子バレー部が松原市内中学校に「大塚スポーツインストラクター派遣事業」（部員がスポーツコーチを行う）を実施。</li> <li>全運動部が地元をはじめ府内中学と長期休業期間を中心に合同練習を実施。</li> <li>サッカー部・女子バレー部が松原東小学校と松原小学校の児童を対象に「ふれあい大塚スポーツ教室」を実施。</li> <li>家庭科部、ダンス部が松原 6 中フェスタに参加</li> <li>吹奏楽部が松原市交通安全習慣オープニング参加。</li> <li>ダンス部が松原市市制 55 年記念行事に参加</li> <li>PTA 役員会による校内清掃・緑化活動の実施</li> </ul> <p>広報活動の主な状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会（合同説明会、出前授業、保護者説明会等）</li> <li>夏期中学校訪問、松原 7 中学を中心に羽曳野、藤井寺、市内中学への定期的な中学校訪問等を概ね順調に進めることができた。</li> </ul>	<p>新カリキュラムの完成。それに伴う学習評価や教務内規等の見直し改定。</p> <p>本年実施した取り組みを地元松原市を中心に、更なる発展・充実・定着をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校リーフレットの作成（これまでの普通科と体育科のリーフレットを改め、新しく作り変える）</li> <li>学校 PR 活動としての学校ホームページのリニューアルと充実</li> <li>体験授業や体験入部の回数、時期を見直し、更なる広報活動の充実をめざす。</li> </ul>
(4) 追加項目	<p>府立高校唯一の体育科としての施設の充実、環境整備・・・「競技力の向上」「広く府民の体育・スポーツの振興、発展のための拠点校」にふさわしい施設の充実、環境整備を可能な限り推し進める。とりわけ本年度は、トレーニングルームの整備とその有効活用を図り、府立高校唯一の体育科としての特色を鮮明にして、日本一の大塚高校をめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新トレーニングルーム設置</li> <li>陸上投てきゲージの配備</li> <li>シャワールームの設置工事着工</li> <li>サッカーゴール配備、テニスコート支柱の修理</li> <li>各種体育機材、消耗品等の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>競技力向上とスポーツの振興発展のための拠点校としての体育科にふさわしい施設設備の整備を更に推し進める。</li> <li>新トレーニングルームの授業、部活動、学校行事で多目的に有効活用を図る。</li> </ul>

#### 4 学校教育自己診断における結果と分析

[ 平成22年 12月 実施分 ]

\*実施対象 ( 教職員 ・ 児童・生徒 ・ 保護者 ・ その他 )

本校では学校教育自己診断は3年ごとに実施。実施しない年は、教職員と生徒を対象に学校教育ミニ診断を実施している。本年はミニ診断実施。

##### 教職員

- ・51項目の質問。肯定的意見が70%を上回ったのは、5項目。本校では朝の挨拶指導を徹底している(71.4%)、本校の生徒は遅刻を繰り返すことを悪いと思っている(77.8%)、本校はルールを軽視する生徒は少ないと思う(73.4%)、本校のPTAは活動している(75.0%)、本校のPR活動行われている(73.2%)。
- ・前年より肯定的意見が20%を上回ったのは2項目。本校では到達度の低い生徒に対する学習指導を全般的課題として取り組んでいる(55.7%+20.5P)、本校の学年職員室の情報機器は整備されている(39.3%+22.4P)。
- ・前年より否定的意見が20%を下回ったのは2項目。本校の各分掌は学校の教育目標の達成に向け機能している(34.4%-22.0P)、本校の体育施設は充実している(37.5%-20.2%)。
- ・授業学習指導に関して、少人数制指導をもっと導入すべき(51.6%-2.0P)到達度別授業をもっと導入すべき(60.0%+9.3P)生徒の意見や感想を聞き授業を工夫して行っている(46.8%+0.3P)生徒の学力を伸ばすための全校的な取組がなされている(30.6%-7.4P)

少人数や到達度別の展開については肯定的な意見が多い。生徒の実態や教科の特性を踏まえた検討が必要。また、授業力アップのための取組を、研究授業や授業評価を通じて推進しなければならない。

##### 生徒

- ・27項目の質問。肯定的意見が70%を上回ったのは、7項目(昨年8項目)。進路について必要な情報を提供してくれる(73.8%-0.3P)、部活動や行事を十分行える施設設備がある(72.6%+0%)、遅刻を繰り返すことはよくないと思う(88.1%+0.4P)、朝の挨拶をしっかりとっている(83.4%+0.3P)、遅刻頭髪指導には従っている(84.9%-1.9%)、注意してくれる先生が多い(82.0%-1.3P)、私は宿題や課題があればする(70.6%-0.9P)。
  - ・授業学習指導に関して、宿題があればする(70.6%-0.9P)、宿題や課題はよく出される(67.1%+5.3P)、学力を伸ばす授業を行っている(49.3%+0.5P)到達度別授業を導入すべき(42.9-0.1P)
- 生徒の学習への取組は受動的。生徒の実態やニーズを把握するためにも生徒による授業評価は必要である。

#### 5 学校協議会における提言内容

\*実施日 第1回(6月24日)第2回(11月25日)第3回(3月4日)

##### \*委員構成

岡崎勝博(大体大教授)森川英子(関西女子短大教授)白樫雅洋(地元中学校長)塩見泰幸(地元小学校長)小森正郎(地域副会長)橋本正(地元商工会議所)名高泰治(PTA会長)

##### 第1回・授業見学

- ・本年度の学校教育目標
- ・本年度の学習指導の取組・・・授業評価、教科書採択
- ・進路状況と本年度の取組
- ・体育科の主な活動、部活動実績

##### 第2回・各分掌および体育科より本年度の取組状況(進捗状況)説明

- ・授業力の向上のための方策について

##### 第3回・学校教育ミニ診断結果報告と意見交換

- ・教員の授業力向上に向けて

##### \*まとめ

- ・生徒による授業評価は授業改善委員会等の組織を立ち上げて専門的に実施推進するのがよい。
- ・評価結果をしっかりと分析整理してフィードバックすることが大切。形だけでやっても効果は期待できない。
- ・授業評価という言葉に縛られることなく、むしろ「教員文化作り」「職員文化作り」という思いで、難しく考えるのではなく、我々の教員文化を豊かにするといった気持ちで進めるのがよい。
- ・キーワードは「成熟させていく」・・・授業評価を一つのツールとして、教員文化を豊かなものに発展させ成熟させていく。これが目指す授業力の向上となる。また、先生方の授業力の向上は「生徒たちを成熟させていく」という学校教育の大目標につながる。